

■ コメント

1. 腸管出血性大腸菌感染症

第31週だけで6件報告され、今年の累計は18件となっています。18件のうち17件が5月以降の発生で、半数の9件が1歳から5歳の幼児です。子どもと高齢者は重症化しやすいので特に注意が必要です。

2. ヘルパンギーナ

定点当り2.63人と減少していますが、多い状態が続いています。中区では6.0人と特に多く、安芸区5.5人、南区3.0人となっています。

3. 手足口病

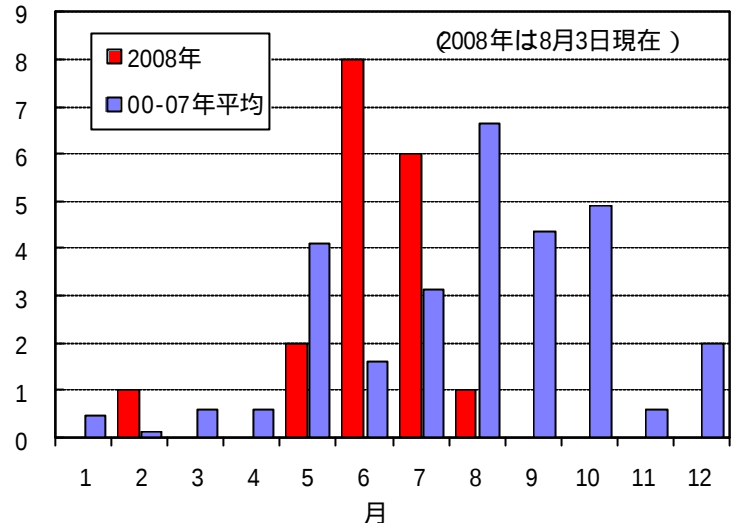
定点当り1.29人と減少しています。安芸区4.5人となっています。

4. 百日咳

3人(定点当り0.13人)報告されています(9歳1人、20歳以上2人)。

(件/月)

腸管出血性大腸菌感染症の月別報告数



■ 5類感染症報告状況(定点把握対象分)

疾患名	報告数	定点当り	平均過去5年(注1)	発生記号	疾患名	報告数	定点当り	平均過去5年(注1)	発生記号
インフルエンザ(注2)	-	-	-		ヘルパンギーナ	63	2.63	2.25	
咽頭結膜熱	9	0.38	0.60		流行性耳下腺炎	1	0.04	0.97	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	22	0.92	0.82		RSウイルス感染症	2	0.08	-	
感染性胃腸炎	69	2.88	3.31		急性出血性結膜炎	3	0.38	-	
水痘	15	0.63	0.90		流行性角結膜炎	-	-	1.23	
手足口病	31	1.29	2.28		細菌性髄膜炎	-	-	-	
伝染性紅斑	1	0.04	0.43		無菌性髄膜炎	-	-	0.54	
突発性発疹	26	1.08	0.73		マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.48	
百日咳	3	0.13	0.02		クラミジア肺炎(注3)	-	-	-	

急増減 ↑ 前週と比較しておおむね1.2以上の増減

増減 ↗ 前週と比較しておおむね1.15～2の増減

微増減 ↘ 前週と比較しておおむね1.1～1.5の増減

横ばい ⇄ ほとんど増減なし

報告数が少ないなど、傾向の判断が不適切と思われるものについては、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注1)過去5年間(RSウイルス感染症は4年間)の同時期平均(定点当り)
(注2)鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く
(注3)オウム病を除く

■ 1類～5類感染症報告状況(全数把握対象分)

類型	疾患名	報告数	累積	備考
2	結核	4	131	女性(30歳代)・1人、男性(40歳代)・1人、男性(80歳代)・2人
3	腸管出血性大腸菌感染症	6	18	男性(10歳未満)・O26、男性(10歳未満)・O157、 男性(10歳未満)・O157、男性(10歳代)・O157、 男性(20歳代)・O157、男性(40歳代)・O157

■ 5類感染症報告状況の推移 (定点把握対象分)

報告数	広島市	週	インフル エンザ (注1)	咽頭結膜熱	A群溶血性 球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス 感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (注2)
報告数	広島市	第27週	-	14	50	86	35	60	12	22	-	101	6	-	-	8	-	-	-	-
		第28週	-	11	40	88	30	49	18	29	5	119	7	3	-	11	-	-	1	-
		第29週	-	10	32	103	22	60	1	18	4	96	4	-	-	3	-	-	2	-
		第30週	-	18	26	77	15	47	2	24	-	91	3	-	-	2	-	-	1	-
		第31週	-	9	22	69	15	31	1	26	3	63	1	2	3	-	-	-	1	-
定点 当り	広島市	第27週	-	0.58	2.08	3.58	1.46	2.50	0.50	0.92	-	4.21	0.25	-	-	1.00	-	-	-	-
		第28週	-	0.46	1.67	3.67	1.25	2.04	0.75	1.21	0.21	4.96	0.29	0.13	-	1.38	-	-	0.14	-
		第29週	-	0.42	1.33	4.29	0.92	2.50	0.04	0.75	0.17	4.00	0.17	-	-	0.38	-	-	0.29	-
		第30週	-	0.78	1.13	3.35	0.65	2.04	0.09	1.04	-	3.96	0.13	-	-	0.25	-	-	0.14	-
		第31週	-	0.38	0.92	2.88	0.63	1.29	0.04	1.08	0.13	2.63	0.04	0.08	0.38	-	-	-	0.14	-
	全国	第29週	0.03	0.86	1.52	3.45	1.23	3.45	0.18	0.79	0.04	4.41	0.57	0.06	0.02	0.91	0.01	0.07	0.41	0.02
		第30週	0.02	0.85	1.11	2.92	0.95	3.24	0.11	0.75	0.03	3.58	0.47	0.08	0.02	0.77	0.01	0.07	0.33	0.01

(注1)鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く (注2)オウム病を除く

■ 新たに判明した病原体検査結果

診断名	患者 年齢	性別	発症 年月日	検査材料	検出病原体
咽頭結膜熱	0	男	2008/06/23	糞便	パレコウイルス3型
咽頭結膜熱 肝炎	1	男	2008/04/21	糞便	アデノウイルス41型
感染性胃腸炎	0	女	2008/05/02	糞便	ロタウイルス (A群)
感染性胃腸炎	0	女	2008/05/02	糞便	ポリオウイルス3型
ヘルパンギーナ	1	女	2008/06/01	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA16型
ウイルス感染(疑)	0	女	2008/06/20	糞便 鼻汁(拭い液)	パレコウイルス3型
急性上気道炎	0	男	2008/06/20	糞便 鼻汁(拭い液)	パレコウイルス3型
急性上気道炎	0	女	2008/06/22	鼻汁(拭い液)	パレコウイルス3型
腸重積	0	女	2008/05/21	糞便	アデノウイルス3型
腸重積症	1	女	2008/06/23	糞便	アデノウイルス40/41型
不明熱	0	女	2008/06/24	糞便 鼻汁(拭い液)	パレコウイルス3型
喘息様気管支炎	0	女	2008/06/22	咽頭拭い液	パレコウイルス3型

腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう

広島市では5月以降、腸管出血性大腸菌感染症が増加しており、特に幼児の患者が多くなっています。例年、気温が高い5月から10月ごろにかけて多発する傾向にあります。暑い日が続いていますので注意が必要です。

腸管出血性大腸菌感染症は、症状のないものから、腹痛や下痢を伴うもの、血便を伴うもの、さらには重症化して溶血性尿毒症症候群 (Hemolytic Uremic Syndrome, HUS) を発症するものなど症状は様々ですが、子どもと高齢者は重症化しやすいので特に注意が必要です。

菌に汚染された食物を食べることによって感染しますが、感染力が強く、人から人への二次感染にも注意する必要があります。予防のために次のことに注意しましょう。

- 手洗いを励行しましょう
- 肉・レバーなどはよく加熱し、生食は控えましょう
- 焼肉の時は、生肉を取るはしと食べる時に使うはしを別々にしましょう。
- 食品は衛生的に取り扱い、調理器具はよく消毒しましょう
- 乳幼児のオムツの取扱には十分注意しましょう
- この時期は簡易プールを介して感染すること考えられるので、衛生管理に気をつけるとともに、入る前によく体を洗いましょう。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページをご覧ください。

URL <http://www.city.hiroshima.jp/shakai/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.jp

2008年第31週 (7月28日～8月3日)